

II. 沖縄経済の発展に貢献した企業

県内唯一のセメント製造メーカー！

琉球セメント(株)

(本 社) 沖縄県浦添市
 (社 長) 喜久里 忍
 (資本金) 1,411百万円
 (業 種) 製造業
 (創 業) 1959 (昭和34) 年9月

【企業概要】

「郷土の資源で郷土をつくる」の経営理念のもと、昭和40年のセメント初出荷から50年以上、沖縄の社会基盤整備の一翼を担う。資源リサイクル事業の更なる強化に努め、沖縄になくてはならない企業を目指す。

1959 (昭和34) 年 創業

創業者は「沖縄の産業復興の父」と呼ばれる宮城仁四郎。屋部村（現・名護市）で設立。屋部村安和で良質な石灰石、副資材となる粘土の調達が可能であり、米国のセメント会社と資本・技術提携を結び事業開始



豊富な地下資源（石灰石・粘土・珪石・鉄滓等）に恵まれ、半世紀以上に亘り、郷土の発展を見守り続ける安和鉱山。年間約250万トンの石灰石が採掘され、限りある資源を最大限に活かした製品化が図られている。採掘跡地の緑化活動も推進。

1965年 セメント出荷開始

1980年 2号キルンNSP化

1450度での燃焼が可能に。高温焼成により、ダイオキシンや二次廃棄物が発生しない

1998年 屋部工場のFA化

最新のコンピューター制御システムを導入



● NSPキルン
 エネルギーコストの低減、窒素化合物規制への適合、クリンカの増産など、さまざまなメリットを生みだしているNSP方式キルン。

戦後復興と経済自立のため、セメント製造を通じ、様々な社会基盤づくりで沖縄の発展に貢献！

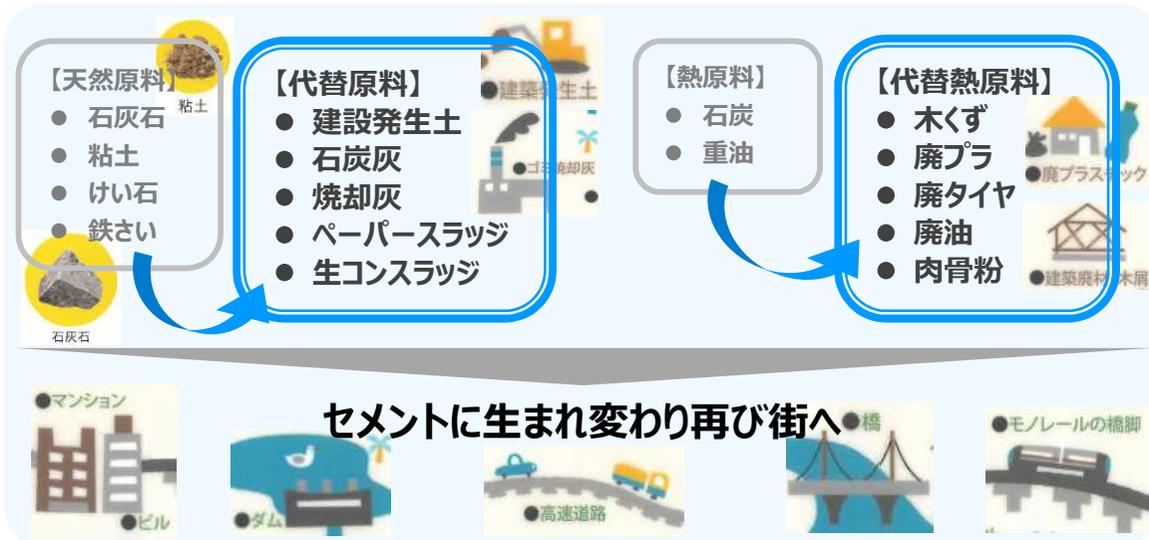
次なる使命：循環型社会の実現

2006年 資源リサイクル事業の開始

- 廃棄物は焼却等の減容化後、最終処分場で処理
- 島しょ県で処分場の延命は大きな課題

沖縄県年間廃棄物発生量：240万トンを

うち19万トンをリサイクル → 行政に大きく貢献



天然資源節約

温室ガス削減

埋立処分場の延命

セメント産業は究極の資源リサイクル工場！

「郷土の資源で郷土をつくる」の経営理念のもと、今後もセメント事業を柱に、資源リサイクル事業の更なる強化に努め、循環型社会の形成に貢献する。そうすることで、SDGsの目標達成にも貢献し、持続可能な社会の実現と、企業としての持続的成長の両立を図る。